



食事情

インドネシア

BOP層実態調査レポート



- 調査実施日: 2012年5月30~31日および6月9日
- 調査場所: ジャカルタ首都特別州南ジャカルタ市クマン郡ペラ・マンパン区の一一般家庭
- 調査対象: 中低所得層家庭(A氏、B氏)、低所得層家庭(C氏)、その他近所の人たちを訪問・ヒアリング

<対象者 詳細>

- ・A氏: 男性(60代、運転手)／家族構成: 妻(主婦)、子供3人、孫2人
- ・B氏: 女性(40代、主婦)／家族構成: 夫(教員)、子供2人
- ・C氏: 女性(40代、野菜行商)／家族構成: 夫(商人)、子供 人数不明

*インドネシアルピア換算レート 10,000ルピア=85円(2012年6月平均レート)

1. 調査概要

2012年5月30~31日および6月9日、ジャカルタ首都特別州南ジャカルタ市クマン郡ペラ・マンパン区にて一般家庭を訪問し、「食」に関わる状況についてヒアリングを行った。この地区には、電化製品のそろった中低所得層の住宅の集まる区域と、地方からの出稼ぎ労働者やバイクタクシー運転手などが住む、掘立小屋に近い作りの低所得層向け住居の区域が棲み分かれ、並存している。

中低所得層の住宅の集まる区域にあるA氏宅、B氏宅では、日常の調理に使う家電や器具として炊飯器、中華鍋、フライパンなどが一応揃う。オーブントースター、電子レンジ、ジューサー・ミキサーなどはない。洗った食器類は流し場の脇に置かれ曇りガラスの食器棚に格納される(写真1)。



写真2 B氏宅台所

熱源はプロパンガス(LPG)を使用しているが、かつては灯油コンロだった。2007年にユスフ・カラ副大統領が主唱したプロパンガスへの切替政策が契機となった。通常の12キロLPGボンベ以外に3キロLPGボンベを用意し、2009年までに首都ジャカルタの対象5,000万世帯の8~9割をLPGへ切替えるとした。切替当初、1リットル当たり3,500ルピアだった灯油価格は、その後の原油価格上昇や、石油燃料向け補助金削減で、今や1万1,000ルピアへ上昇した。

この地区の家庭では切替前、1日に調理用灯油を約1リットル使っていた。3キロLPGボンベは1個1万5,000ルピアで約8日間使える。切替は大歓迎された。LPGガスコンロは、日本のリンナイ社製が圧倒的に支持されていた。中国製などより倍近く高額だが、扱いやすく故障も少ない。魚グリルなしの二口のガスコンロが一般的である(写真2)。



写真1 A氏宅台所



食材については、生鮮品は、徒歩で10分程度のパサール(マーケット)で調達するが、毎朝必ず行くわけではない。ほとんどの家に容量100リットル前後の中型冷蔵庫に生鮮品を一定量保存する(写真3)。米は米櫃に保存する。必要になったときにパサールへ出かける。炊飯器には、朝炊かれたご飯が保温状態で置かれている。



写真3 A氏宅冷蔵庫

どの家の炊飯器も、日本メーカーに先駆けて製造販売した国内企業Cosmos社製だった(写真4)。飲料水については、A氏の家では、ミネラルウォーターをガロン(1ガロンは約4リットル)で購入し、ディスペンサーを使っていた。この地区は水質が悪く臭うため、以前から飲料用にコップ型150mlのミネラルウォーターを購入して飲んでいた。ガロンでの購入は2007年頃からである。

次に、低所得層向け住居の区域にあるC宅では、女性が井戸水を汲み上げて洗濯をしていたが、茶色く濁っていた。台所はどの家も比較的清潔で、整理整頓もしっかりしていた。ただし、調理の際には、昔と同じように、床に座って調理しているとのことである。食事内容は観察できなかったが、冷蔵庫にある食材などから判断して、ご飯とおかず2品ぐらいとみられる。日本のように、1日3回、家族が全員で食卓を囲めるような食堂スペースはないが、家族や近所の人々の存在が常に感じられる空間で、各人が皿にご飯とおかずを盛り、適宜食べる、という形態である。また、近所の軽食屋やカキリマと呼ばれる屋台などから、麺やお粥などを持ち帰って家で食べることも一般的である。毎日やって来るカキリマは近所の軽食屋と同様、地元にはおなじみである。子どもの買い食も一般的である。



写真4 A氏宅炊飯器



写真5 A氏宅台所の隣はトイレ・浴室

2. 所感

台所は比較的清潔だが、写真5に見られるように、水場の関係でトイレ・浴室や洗濯機と近接するため、衛生面での配慮が必要だろう。水なしで手洗いでできる液剤、手を拭いたり食器を拭いたりする布の清潔さを保つための殺菌剤などは、食事情に限らず、インドネシア全体が必要である。電子レンジはまだだが、食事の残りを冷蔵庫で保管する需要はあり、ラップももっと普及できる。アンペア数が制限されるため、電気を使う調理家電の普及は難しい。しかし、電池式は受け入れられるだろう(フードカッターなど)。また、調味料配合の手間を省いたインスタント調味料や味付け揚げ粉などはよく売られている。

JETRO

【免責事項】本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。